大伴坂上郎女、親族を宴する日に吟ふ歌

一首

四〇一番

山守の　ありける知らに　その山に　標結ひ立て
て　結ひの恥しつ

大伴宿禰駿河麻呂即ち和ふる歌一首

四〇二番

山守は　けだしありとも　我妹子が　結ひけむ標
を　人解かめやも

大伴宿禰家持、同じ坂上家の大嬢に贈る歌

一首

四〇三番

朝に日に　見まく欲りする　その玉を　いかにせ
ばかも　手ゆ離れずあらむ